

写真家の父ちゃんが、2歳の息子にあてた
旅先からの手紙

父ちゃんから
の手紙 ⑩

Letter from
Dad

林太郎へ

平成23年3月11日、東北で大きな地震がありました。大きな揺れと津波で、たくさんの方が亡くなり、住む家が流されました。父ちゃんは今日、その被災地の一つ、岩手県の山田町にある仮設住宅に行ってきました。

家族が流され一人になってしまった

人、思い出の詰まった家や、大切にしていた仕事の道具を失った人。お話を伺うと胸が苦しくなり、涙をこらえることができませんでした。でも今日、父ちゃんは悲しい気持ちだけでこの手紙を書いているではありません。

辺りがすっかり暗くなった帰り道。仮設住宅の玄関わきに大きな鮭を見つけてきました。塩漬けた鮭を冬の寒い外

で干して、荒巻鮭を作っているのですね。鮭を照らす窓の明かりが父ちゃんにはすごく明るく見えました。そして、その家の中からは楽しそうな笑い声が聞こえました。

父ちゃんはここに来て、悲しいお話をたくさん聞いたのと同じに、一日一日を大切に生きることの大切さを教えてもらった気がします。



公文健太郎 (くもん けんたろう)

写真家。1981年生まれ。国内だけでなく、ネパールなど海外の被写体をテーマに作品を撮り続け、写真集やエッセイ、写真展などで発表している。2児の父。 <http://www.k-kumon.net/>